

第1章

# 基本構想

## なぜ今ふくしのまちづくり

昭和51年に建てられた特別養護老人ホーム芳生苑と平成6年に建てられた老人デイサービスセンター健楽苑の老朽化に伴い、建て替えを検討してきました。

### 特別養護老人ホーム芳生苑



- 本部棟・東棟(50床)昭和51年建設 **47年経過**
- 西棟(50床)昭和55年建設 **43年経過**
- ・電気床暖房の電熱系統の不具合
- ・給水給湯管の腐食
- ・耐力壁構造のためレイアウトの変更不可能
- ショートステイ用居室(個室5室)平成11年度整備



### デイサービスセンター健楽苑



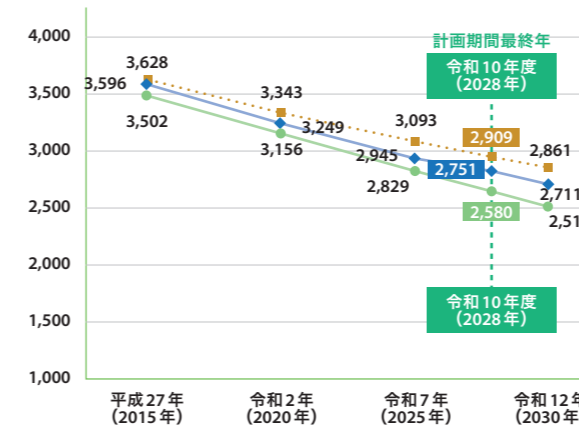
- ・平成6年建設 **29年経過**
- ・利用者の重度化によりトイレの全面改修の必要性
- ・経年劣化による浴槽壁面の大規模改修

芳生苑等の大規模改修

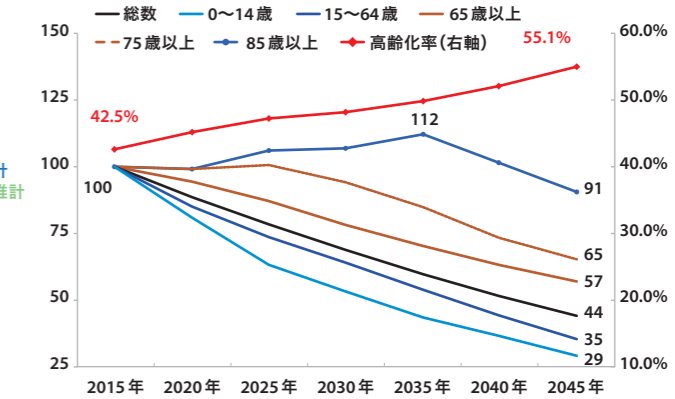
年度	主な内容	金額(千円)	財源内訳		
			起債	基金	一般財源(町)
平成27年度	芳生苑東棟居室改修14室、診療室改修 健楽苑外壁改修	23,152 18,468	0	0	23,152 18,468
平成28年度	芳生苑西棟居室改修15室	20,714	20,700	14	0
平成29年度	芳生苑空調整備・ナースコール更新 健楽苑空調整備・和室床改修	18,360 11,124	9,000 5,400	9,360	0
平成30年度	芳生苑特別浴室改修・介護浴槽設備更新	13,824	6,900	6,924	0
令和元年度	芳生苑給湯設備改修工事(東棟・管理棟)	9,234	0	4,920	4,314
令和2年度	芳生苑給湯設備改修工事(西棟)	8,580	8,500	0	80
	計	123,456	50,500	68,562	4,394

和寒町高齢者総合福祉施策の考え方より抜粋

人口減少が見込まれる中、「高齢者施設の建て替え」だけではない、あらゆる人がこの町に住み続けられる地域福祉をめざす「和寒町ふくしのまちづくり基本構想」を策定することとなりました。

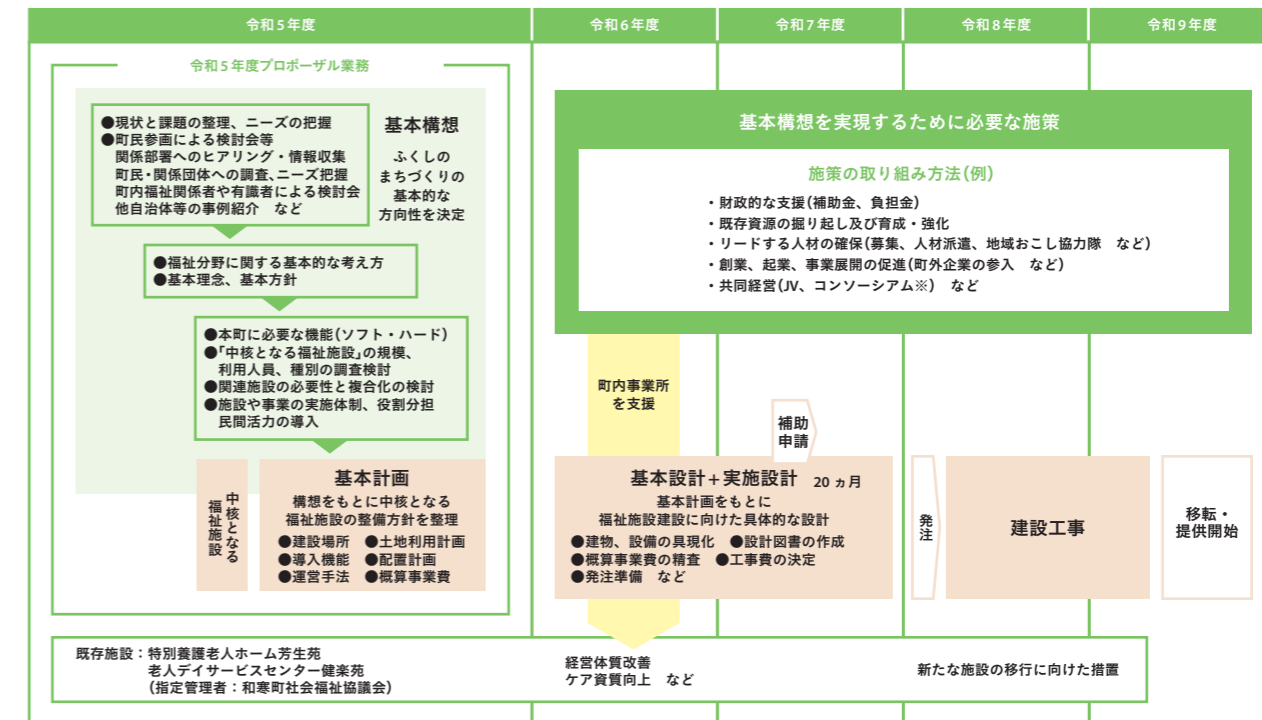


第6次和寒町総合計画より抜粋



和寒町将来人口推計

### 「和寒町ふくしのまちづくり基本構想」の推進イメージ



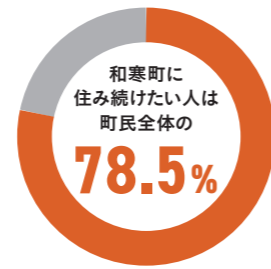
和寒町「ふくしのまちづくり基本構想」年度別推進イメージ図

## なぜ今ふくしのまちづくり

「和寒町ふくしのまちづくり基本構想」はプロジェクトとして町民の皆さんの意見を反映し、共につくりあげていくため、「第6次和寒町総合計画」、「第2次和寒町まち・ひと・しごと総合戦略」、「和寒町地域福祉計画」等の資料から、和寒町の現状及び課題を整理しました。

### 第6次和寒町総合計画 町民意向調査を見つめる

第6次和寒町総合計画町民意向調査は、和寒町が総合計画を策定するにあたって、令和元年12月に町民1,000名を対象にアンケート調査を実施し、回答者483名のご意見をまとめたものです。



第6次和寒町総合計画町民意向調査にて、「今の場所に住み続けたい」「町内の別の場所に移りたい」「住み続けたいが、町外に移ることになる」と78.5%の人が回答しています。

#### めざすべきまちの将来像を描くとき、ふさわしいキーワード

安心・安全	47.4%
思いやり	32.9%
生きがい	26.9%

最も多く挙げたキーワードは、「安心・安全」でした。続いて、「思いやり」「生きがい」の順となっています。町民のみなさんが「人」を大事にし、人と人との結びつきや支え合い、人が輝き続けることをイメージしていることが傾向として表れています。

#### 社会福祉・保健医療などの分野で重要と考えること

病院などの医療環境	65.8%
高齢者への支援施設の整備	47.8%
障がい者(児)への支援	47.4%

医療環境についての意見が最も多いのは、医療体制が変わったことが大きく影響していると考えられます。また、小規模自治体では、このような問いで「医療」を重視する傾向があります。注目すべきは、「障がい者(児)への支援」を重視する意見が3番目に多いことです。今後検討すべき重要な視点です。

#### 和寒町を転出する理由

医療・福祉面での不安	72.2%
交通が不便	72.2%
働く場所がない	50.4%

転出理由は、和寒町の課題と置き換えて考えられる事項だと思えます。「医療・福祉」「交通の不便」が上位項目となっていますが、小さな自治体ではこのような項目が上位を占める傾向があります。注目すべき和寒町の特徴は、「働く場所がない」という点です。本プロジェクトでも、雇用創出の視点について検討すべきだと考えます。



## なぜ今ふくしのまちづくり

### 町民や福祉関係団体の声から

本プロジェクトに町民の皆さんの意見を反映し、共につくりあげていくため、和寒町で暮らす、働く皆さんから、どんな和寒町にしていきたいか、和寒町にあったらいいこと・もの、和寒町に対してどんな思いを持っているか伺いました。

## VOICE

#### たくさんの皆さんからお話を伺いました

- ・小学生(5年生)
- ・中学生(2年生)(認知症サポーター養成講座に合わせて実施)
- ・障がい児の保護者の皆さん
- ・芳生苑、健楽苑の職員の皆さん
- ・民間介護事業者の皆さん
- ・農業従事者の皆さん
- ・商工業者の皆さん
- ・和寒町役場の皆さん



- ・若手農業・商工業・役場職員による特設ラボにて「和寒町をこうしていきたい」という思いを伺いました。
- ・まちづくりラボに参加する町民の皆さんからご意見をいただき、深掘りが必要な場合、個別・団体等からさらにご意見をいただきました。
- ・芳生苑・健楽苑の職員の皆さんのご意見を重視し、職員の方から個別にお話を伺ったり意見交換会を実施しました。



#### いただいたご意見から

##### ①障がい児の保護者の皆さん

#### 障がい児の保護者の皆さんと懇談し、現状を伺いました。

- ・乳幼児検診等から旭川市の療育センターや士別市の発達相談や個別・集団療育を受けることが多い
- ・就学以降の支援がない状況(旭川市や士別市などの支援を受けている)
- ・数年前に特別支援学級に赴任していた先生がコーディネイト機能を果たしていた
- ・コーディネイトをするような専門職が不在であるが、保健師や小学校の先生が相談しやすい状況

皆さんのお話から、放課後等デイサービスといった、障がい児に特化したサービスだけではなく集団の中で社会性を身につけるような居場所とそれを実現するための個々の特性に応じたSST(ソーシャルスキルトレーニング)、また日常的な保育所や学童保育などで専門家のアドバイスなども求められていることがわかりました。

##### ②芳生苑・健楽苑の職員の皆さん

特別養護老人ホーム芳生苑・デイサービスセンター健楽苑の職員49名の皆さんと、事前のアンケート調査をもとに、和寒町に求められる町民を支える福祉システム・機能についてワークショップ・意見交換会を行いました。

今回のプロジェクトで検討が必要な福祉システム・機能として次のような意見がありました。

- 「介護について相談できる場所や窓口」
- 「介護度1,2の人たちを支える地域介護のシステム」
- 「複合型の施設の整備」
- 「いろんな選択肢のあるデイサービス」
- 「医療体制の工夫」
- 「障がいのある人のサポート」
- 「看取りができるシステム」
- 「よりオープンな施設」
- 「世帯まるごと支えるしくみ」
- 「在宅支援の充実」
- 「高齢者が住みやすい場所」

地域に住む高齢者の皆さんが切れ目なく和寒町で暮らし続けられるために、日ごろ高齢者の皆さんと暮らしを作られている職員の皆さんだからこそ伺えるご意見でした。

##### ③和寒中学校2年生、和寒小学校5年生の皆さん

小学校5年生、中学校2年生の皆さんと認知症サポーター養成講座を実施し、「認知症」をキーワードに、老いること、病と共に生きること、それも大切な人生の一部であることを学びました。「認知症の人がいきいきするためにはどうしたらいいか」との設問に、「話を聞いてその人のやりたいことを探す」「和寒町をだれでも住みやすい所にする。自分たちもいろいろ努力する」との回答がありました。サポーター養成講座をきっかけとし、夏に実施した「和寒町福祉ワークキャンプ」に参加した生徒たちは、高齢者との交流や農作業体験を通しこれまで出会わなかった和寒町の魅力を深堀りました。

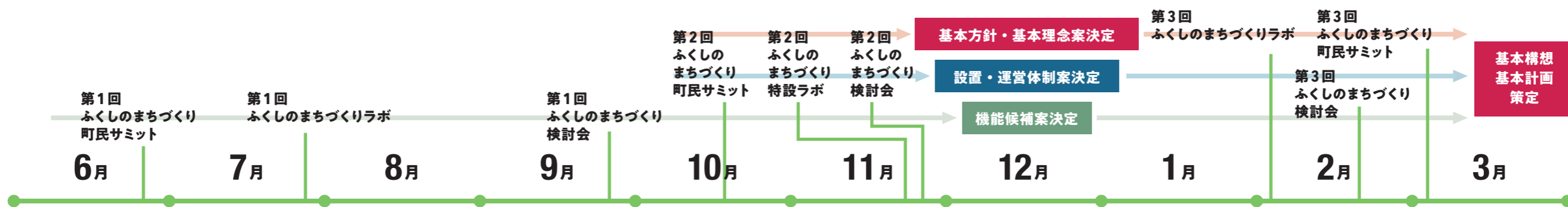
## POINT

#### お話から導き出された方向性

- ・子ども向けの福祉サービスについて、例えば放課後等デイサービスを単体で運営することはニーズボリュームや経営的側面から難しい状況にありますが、ほかのサービスと組み合わせて専門的なサービスを受けることができるような機能が必要とされています。
- ・しかしながら、障がい児だけに対する集団的支援のニーズではなく、様々な社会資源を活用した個別の特性に配慮した社会参加支援などのメニュー開発や、ライフステージが変わっても切れ目のない支援が受けられるような専門職の配置が必要とされています。
- ・住み続けたい気持ちと暮らしへの不安、どのような状態でも和寒町で暮らすことができると実感できるサービス構築と情報発信が必要とされています。(現在取り組まれている内容も含め)

## 取り組みの全体像

和寒町ふくしのまちづくりプロジェクトでは、重要な方向性や様々な提案について、まちづくり町民サミット・まちづくりラボ・検討会実施などのプロセスを経て町民の皆さんと共に検討を重ねてきました。



# ふくしのまちづくり町民サミット

一人ひとりの関わりが  
このまちのふくしを形づくる

和寒町ふくしのまちづくりプロジェクトがめざす方向性を町民の皆さんと共有し、町民の皆さんが作りたいと考える暮らし、福祉についての思いや考えを共有しました。

## 第1回目

|日時| 令和5年6月18日(日)13:30-16:30 |会場| 恵み野ホール  
|参加者| 和寒町内外から100名以上の参加

- [内容] **第1部** 多彩な専門家や研究者をお招きし、まちづくりに関する講演や、本プロジェクトの説明をさせていただきました。
- 第2部** 「みんなで和寒町をデザインする」をテーマに、和寒町にまつわる思い出を書いていただき、時系列順に年表を作成しました。

### 事前説明

#### 越境する福祉をめざして



**大原裕介氏**  
社会福祉法人ゆうゆう 理事長  
北海道医療大学 客員教授

**金野千恵氏**  
建築設計事務所 teco 主宰  
京都工芸繊維大学 特任准教授

### 基調講演

#### 一人一人の居場所を作るまちづくりを



**野澤和弘氏**  
植草学園大学 副学長  
元毎日新聞論説委員

### 対談

#### 福祉と建築でまちをつくる



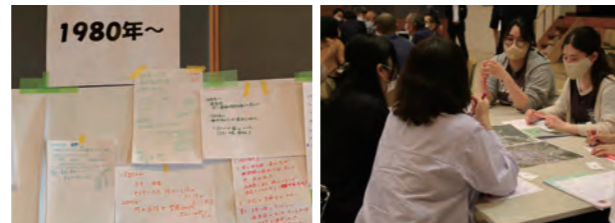
**馬場拓也氏**  
社会福祉法人愛川舞寿会 理事長

**金野千恵氏**  
建築設計事務所 teco 主宰  
京都工芸繊維大学 特任准教授

### 参加型ワークショップ

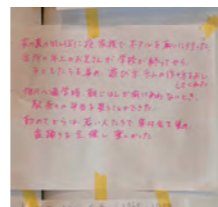
**堀田聡子氏** 慶応義塾大学大学院 教授  
**田中伸弥氏** 社会福祉法人ライフの学校 理事長

参加者で和寒町にまつわる思い出を用紙に記入し、一つの大きな年表を作りました。



### サミット参加者の感想

- ・想像していた以上の参加人数に、驚くと同時に嬉しかったです。
- ・介護や子育てを分けて考えるのではなく、一緒に考えればいいのか！とハッとしました。
- ・自分とは違う世代の方の思い出話を聞き、和寒町の魅力を知ることができた。参加できて良かったです。
- ・福祉を作るのではなく、まちを作るということ。とても勉強になりました。
- ・コミュニティ豊かなまちづくりが想像できました。実現できる様、自身も頑張りたいです。



## 第2回目

|日時| 令和5年10月14日(土)13:30-16:30 |会場| 恵み野ホール  
|参加者| 和寒町内外から約70名の参加

- [内容] **第1部** 本プロジェクトのヒアリングの結果や取り組みのご報告、講演では国内外の他の地域のまちづくりの事例をご紹介いただきました。
- 第2部** 「もっと和寒町をデザインする」をテーマに和寒町の未来について話し合いました。

### 事業報告

#### 和寒町の未来を考える機能候補案について

サミットの冒頭では、社会福祉法人ゆうゆう 大原氏と teco 金野氏より、今までの検討段階のご報告を行いました。今までのサミットやふくしのまちづくりラボの活動などをまとめ、5つの機能候補案を発表しました。

### 事例紹介

#### 一人一人の居場所を作るまちづくりを

**小篠隆生氏**  
北海道大学大学院工学研究院 准教授

小篠氏から、道内やイタリアのまちづくりに関する事例を紹介された後、「人口減少地域では、社会サービスを適切な規模に変化させるだけでなく、皆が社会サービスの担い手になることが重要です。まちの人々で課題を共有し、まちの人々で成長していく未来を描いていただければと思います。」と講演いただきました。

### ワークショップ

#### 理想の未来像、それを誰が担うのか？

ワークショップ「もっと和寒町をデザインする」をテーマとして、和寒町の皆さんとまちの理想像について話し合い、これからの和寒町のビジョンについてグループに分かれて発表しました。

### グループの声

- ・子どもだけでなく、お年寄り、障がいのある方、不登校の子、ひきこもりの方も誰もがいつでも行ける居場所があり、みんなが生きがい、やりがいを持てたらいいと思った。
- ・和寒町の良さを未来を担う子どもたちにも伝えたい。
- ・フルタイムの雇用ではなくても、働ける場所があってそれが生活の手助けになれば良いと思った。自分が退職したときにも働けたら良いと思った。



## 和寒町ふくしのまちづくりラボ

高齢者施設の今後や町民の居場所づくり、介護サービス、障がい者支援、子育て支援など、これからの和寒町の福祉に関するまちづくりを考えるため、様々な立場、職業、年代の皆さんと意見交換および自分たちのまちを自分たちでつくるという意識と行動の醸成を目的として開催しました。

### 第1回目

開催日 | 令和5年7月20-22日 | 参加者 | 総勢81人

内容 | まちづくりの事例を紹介し、和寒町で「したいこと・やりたいこと」についてご意見をいただきました。

#### 事例紹介

### 特養を地域の社会資源とするために

田中伸弥氏  
社会福祉法人ライフの学校 理事長

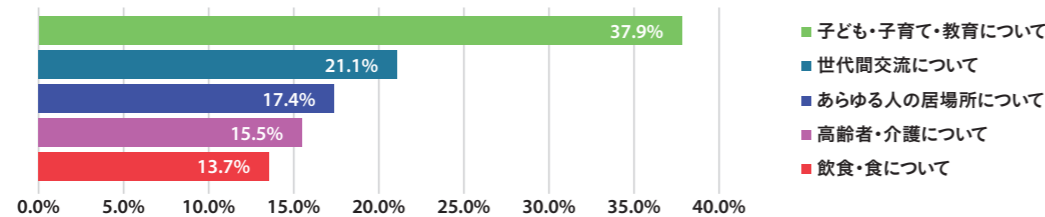


特養が特養に入る人だけのものになってはいけなくと強く感じています。高齢者の生き方から、人間が年老いていくことやいつか亡くなることを子どもたちが学ぶことができるのではないかと考えています。特別養護老人ホームが多様な生き方・多様な死に方が集う社会資源として輝くまちにしたいです。

和寒町で「こんなことができる」「こんなことできたらいいな・したい」ことについてご意見をいただき、161個の意見が集まりました。

この意見を「子どもに関わること」「世代間交流」「居場所」「高齢・介護」「食」「サービス」「観光」「余暇・文化」「仕事」「障がい」「その他」のいずれかに分類しました。

参加者の皆さんの年齢や職種がバラバラの中で「子ども」のことにする意見が4割あることは特筆すべき点であり、本プロジェクトでも重視すべき点です。



### ふくしのまちづくりラボで頂いたご意見をご紹介します

#### 子ども・子育て・教育について

- ・子どもがのびのび過ごせるようにしたい。
- ・子どもや若者が多いまちをしたい。
- ・子どもと遊びたい。

#### 世代間交流について

- ・年代関係なく関われるサードプレイスが欲しい。
- ・高齢者も子どもも、障がいのあるなしに関係なく集まれる場が欲しい。

#### あらゆる人の居場所

- ・イベントごとでなくても、毎日のように集まれるようになりたい。
- ・子どもの面倒をみたり一緒にご飯をたべたり、隣人とのゆるやかな交流をしたい。

### 第2回目

特設ラボ

開催日 | 令和5年11月21日(火) | 参加者 | 総勢56人

内容 | まちづくりの事例を紹介し、和寒町の理想の未来像について語り合いました。

#### 参加された皆さんのご意見

- ・お試しで農業に参加することで仕事のハードルが下がるような機会を創出したい。
- ・スポーツ少年団では、年上の子から年下の子は学び、お互いに成長していく。子どもの居場所としても、これからも続けていきたい。
- ・子どもが思い切り遊んだり、大人もゆっくりできる心の居場所の整備。
- ・商工等の関係者だけでなく、まち全体でイベントごとをつくっていききたい。



### 第3回目

開催日 | 令和6年2月14、17日 | 参加者 | 総勢34人

内容 | まちづくりの事例を紹介し、①子ども②雇用創出③農業・食文化に関する具体的なプランづくりに向けたご意見をいただきました。

#### 新しい施設の整備について

- ・地域の方が利用できる厨房施設、集える場所が欲しい。(まちの台所)
- ・中高生の居場所を整備したい。
- ・子どもの学習スペース、地域の方が学習の支援ができるような機能。
- ・子ども同士、大人同士だけでなく、多世代が交流できる施設にしたい。
- ・子どもの見守りなど、少しの時間での助け合いのシステムがあれば。

#### 既存施設の利活用

- ・図書館に子どもが行くような整備をしたい。
- ・土日公共施設等を使いたい。
- ・町内で食品の加工場を使っているが、おいしいものをつくっても販売できないので環境を整えたい。

#### ふくしのまちづくりラボを開催して

- ・大人数のサミットに対して少人数のラボも良い。
- ・今後も継続して参加したい との声がありました。

毎回参加して下さる方もいるなど、少しずつ「まちづくり」の輪が広がっています。



## 和寒町ふくしのまちづくり検討会

「ふくしのまちづくり町民サミット」や「ふくしのまちづくりラボ」で町民の皆さんから出た意見をもとに、町民の皆さんの意向反映を軸とした「ふくしのまちづくり基本構想」および「中核となる福祉施設の基本計画」の策定に向けて各分野の町内の方、まちづくり・建築における有識者と検討・意見交換を目的として開催しました。

【委員】 介護・福祉、農業、商工、観光、子育て分野の町民の方、まちづくり・建築を専門とする町外の大学の研究者など全14名

### 第1回目

|日時| 令和5年9月20日(水)18:00-21:00

これまでの調査・分析をもとに整理した  
新たな施設機能候補(案)についての検討・意見交換

#### 町内委員より

- ・町の小中学校の家庭科の授業で和寒町のかぼちゃ、キャベツ、お米の料理を食べてもらって、こういうものを和寒町はつくっているのだということを伝える場があると良いです。
- ・今まで和寒町が農業でやってきたことを子どもたちやさまざまな人、場面に展開していくと非常に面白そうだと思います。
- ・子どもが誇りに感じることができる事業、和寒町に定住する若者を増加させる事業をどのように考えるかということが出てくるとは正直思っていなかったです。

#### 外部委員より

- ・特養でなければできないことの中に看取りはあると思います。特養で看取りはやはりやりたいと思いつつ、ただ話し合いの中で難しいことがあり、その中の一つに医療の問題があるのだと思います。我々が医療に対して何を期待するのか、死生観や高齢期の最期をどう考えるかを子どもの頃からの教育を含めてこの町でどうやっていくのか、すぐには変わらないですが10年、20年、30年経ったときに看取りや最期について一人ひとりがイメージできて、それが実践できる形になってくると思います。
- ・8割の方が住み続けたい町ということはすごいことだと思います。町への愛着も太くも細くもなるということで、子どものこと、食のことなど、さまざまな町の宝に関わるを何かあったらではなく、とにかくやってみようと思えるように背中を押していく方法も5年、10年で考える余地がまだまだあると思います。



### 第2回目

|日時| 令和5年11月30日(木)18:00-20:25

新たな施設の機能候補(案)、基本理念(案)、  
基本計画(案)についての検討、意見交換

#### 町内委員より

- ・子どもが大切にされる機能の構築について、子どもの目線から見ると、自主性を持っているんなことが考えられる、動けるような機能の構築をしていただきたいです。
- ・特養の中で子どもたちが遊んでいる姿を入所されている方が見てほほむむという姿が想像できたら良いと思います。



#### 外部委員より

- ・理念や方針は良いと思いますが、それぞれの機能の主語は誰なのかをはっきりしていく必要があります。住民の方一人ひとりが意識を持ってつくりあげ、自分たちの未来を自分たちでつくっていく、それを今後もっと明確にしていくことが必要だと思います。これは自分たちでやっていくことだということが、何か共有できるとより良いのかなと思います。自分たちでやる、自分たちでつくっていくということを共有できる機会や場があると良いのだと思います。

### 第3回目

|日時| 令和6年2月26日(月)18:00-20:15

①子ども②雇用創出③農業・食文化の3つの項目で  
基本構想(骨子)を具体的なアイデアにしていくための  
検討、意見交換

#### 町内委員より

- ・いろんな取り組みを考えられて盛りだくさんのメニューですが、それを一つひとつ実現し取り組みを持続していくためには人づくりというところがやっぱり大切のかなというふうに感じました。
- ・この町をまず好きになるというか、この町が活性化しているということが第一の根底にあると考えると、施設づくりはもちろん重要なことなんですけど、今あるまちの図書館などを大事にするということも優先されることだと思います。

#### 外部委員より

- ・町の規模、今後のまちの状況、そのなかでの維持管理を見据えてなるべくハードは身軽に、自由度がある、融通がきく、可変性のあるものにされるとよいと思います。その意味では、アクティビティー中心の議論と提案がされているので、よいと思います。一方で、新たに創出される「場」は町民の財産となるものです。和寒町だからこその「場」、町民の新たな居場所が作られていくことを期待します。
- ・特養での利用者と子どものつながりは、さまざまなレベルで(直接的～間接的)考えられるのがよいでしょう。気配を感じる、声を感ずる、交わる、活動をともにする…和寒町らしい姿が期待されます。





## 和寒町ふくしのまちづくり基本理念

これまで伺った皆さんからのご意見・議論を通して、和寒町ふくしのまちづくり基本構想の基本理念として次のように掲げます。

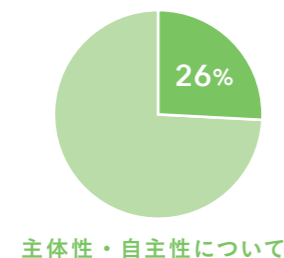
### きょうゆ そうぞう 共愉するまちを創造する

#### 基本方針

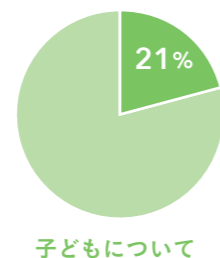
- お互いを想い、<sup>おも</sup> <sup>たの</sup> 楽しいまちづくりを追求する。
- <sup>ほこ</sup> 誇れるまちとなる実践を展開する。
- 誰もが安心して住み続けることができる地域福祉を展開する。
- 自分たちで考え自分たちで行動する。



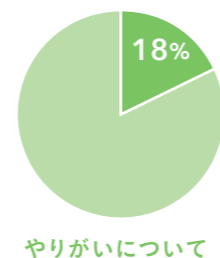
第1回ふくしのまちづくり町民サミットワークショップでは、ご意見の中に「主体性・自主性」「子ども」「やりがい」というキーワードが多く含まれました。



主体性・自主性について



子どもについて



やりがいについて



#### ビジョンを実現する福祉サービス事業と公益的的事业

福祉サービス	広域型特別養護老人ホーム(1ユニット12名個室、4ユニット48名定員)	最期まで暮らし続けることのできる特別養護老人ホームの体制構築
	共生型短期入所生活介護 (空床利用型、1ユニット12名個室のうち2室利用 希望する障がい児者も対象)	あらゆる住民が安心して在宅生活を営むことができる在宅支援サービスの体制構築
	共生型通所介護 (高齢者、希望する障がい児者も対象 多様な活動支援:アート、工作、農作業)	子どもたちが大切にされる機能の構築
	訪問介護・訪問看護・居宅介護支援事業	あらゆる住民が活躍することを実現する「雇用創出」機能の構築
公益的的事业	障害者就労継続支援B(定員10名)	和寒町の特色である農業・食文化を推進する機能の構築
	食の拠点 (施設内の食事、在宅の方への配食、地域への配食、地域に開かれたレストラン)	
	仕事センター (仕事のマッチング、トレーニング・コーディネート、フリースペース)	

ビジョン  
1

# 最期まで 暮らし続けることのできる 特別養護老人ホームの体制構築



### 【サービスの種類】

- ・ 広域型特別養護老人ホーム  
(居室は1ユニット12名個室、4ユニット48名定員)
- ・ 共生型短期入所生活介護  
(空床利用型、1ユニット12名個室のうち2室利用 利用を希望する障がい児者も対象)

### 【事業の方向性】

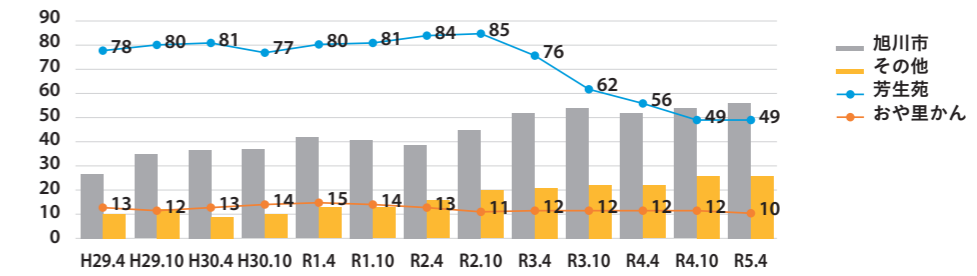
- ・ 特養の定員を48名とし、ユニット型個室を検討します。
- ・ 町内診療所との連携による看取(みとり) (最期まで施設でケアをする) 支援体制の整備を検討します。
- ・ 専門的かつ魅力的な介護や看護ケア体制づくり、広域的な利用者の受け入れ体制を整備します。
- ・ 将来のニーズに応じ、一部の居室を特養以外に有効活用できる形で整備します。

### 【現状】

- ・ 現在100床の特別養護老人ホームは、約50名の利用にとどまっています。
- ・ 今後、2015年から2045年の30年間の人口推計は、85歳以上は横ばい、65歳以上は減少傾向にあります。
- ・ 特別養護老人ホームの利用する前段階で、他市町村へ転出する傾向にあります。
- ・ 現行の運営団体の職員の処遇を基準に、人材確保の視点も含め雇用を継続する経営的な視点が必要です。
- ・ 特別養護老人ホームの設えを検討するにあたって、町民の世帯所得状況も重視する必要があります。
- ・ 今後の社会的ニーズに柔軟に対応するため、一部ユニットの可変的利用の検討も必要です。

### ■ 町外の介護保険施設等の利用状況

施設所在地別



施設所在市町村別

出典：和寒町保健福祉課

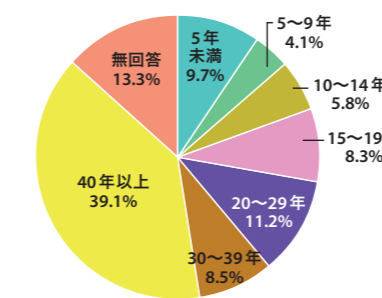
	H29.4	H29.10	H30.4	H30.10	R1.4	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10	R4.4	R4.10	R5.4
【上川北部】													
士別市	5	5	4	3	4	3	5	7	5	6	5	6	5
剣淵町								1	1	3	3	2	2
名寄市								1				1	
幌加内町	1	1	1										
【上川中部】													
旭川市	27	35	37	37	42	41	39	45	52	54	52	54	56
当麻町	2	2	2	2	3	4	3	3	3	2	3	4	4
東神楽町	1	1	1	3	3	2	3	3	5	5	5	5	6
比布町	1	1			1	1	1	1	1	1	1	1	2
愛別町						1	1	1	1	1	1	1	1
【その他】													
札幌市				1	1	2	3	3	5	4	4	6	5
網走市		2	1	1	1								
室蘭市													1
計	37	47	46	47	55	54	55	65	73	76	74	80	82

旭川を除く上川地方の利用者は20名、旭川市の利用者は56名、合計76名の町外介護施設利用者がいます。

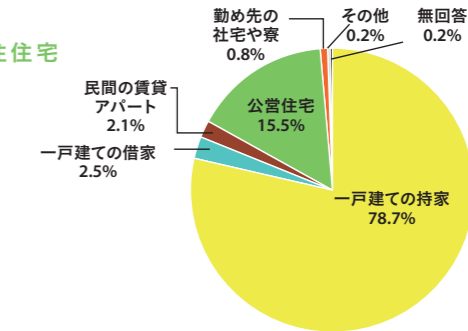
### ■ 潜在的なニーズについて

#### ・ 居住年数

出典：  
和寒町第6次総合計画

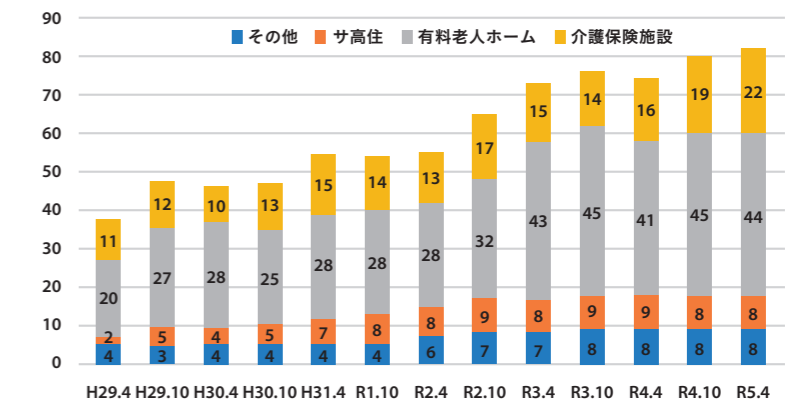


#### ・ 居住住宅



令和5年4月のデータから、町外のサービス付き高齢者向け住宅・有料老人ホームを利用している方が52名おり、特別養護老人ホームに入居する要介護度3となる前段階で転居したと考えられます。

また、町外の特別養護老人ホーム等介護保険施設の利用者は22名、その他のサービスも加えると計82名の方が町外の福祉サービスを利用している状況から潜在的な施設入居のニーズがあると推測されます。



出典：和寒町保健福祉課

## あらゆる住民が安心して 在宅生活を送ることができる 在宅支援サービスの体制構築



### 【サービスの種類】

- ・共生型通所介護  
(18名定員、高齢者、希望する障がい児者も対象 多様な活動支援：アート、工作、農作業)
- ・訪問看護・訪問介護・居宅介護支援事業
- ・共生型短期入所生活介護  
(各ユニット2居室、8名、特別養護老人ホームの空床利用型)

### 【事業の方向性】

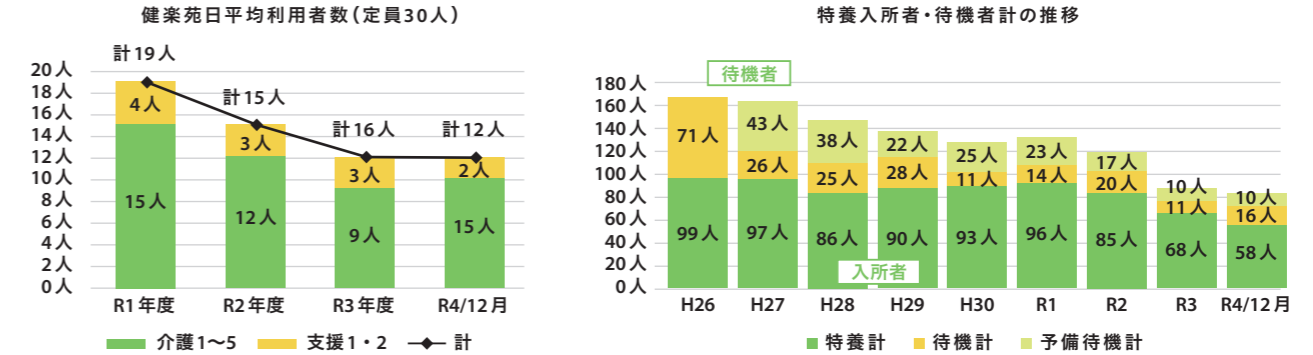
- ・短期入所や通所・訪問サービスについて、高齢者・障がい児者が利用する共生型サービス事業を実施します。
- ・高齢者共同福祉住宅「かたくり荘」、大通団地「延寿」をサービス付き高齢者向け住宅等に転用することを検討します。
- ・あらゆる住民を対象にした、訪問看護・訪問介護・居宅介護等の、在宅支援サービスの体制を整備します。

### 【現状】

- ・通所サービスの利用者及び待機者が一定数いる状況にあります。
- ・特別養護老人ホーム入所基準の介護度の前に、在宅生活が厳しい状況となり転出する傾向にあります。
- ・高齢者向けの町営住宅の整備がなされている状況があり、福祉的事業として転用できる資源があります。
- ・訪問サービスを実施する事業者が町内に1カ所しかない状況であり、すべてのニーズに応えられていない状況にあります。
- ・在宅で暮らす障がい者において保護者の高齢化等を踏まえ、潜在的ニーズとして捉える必要があります。

### ■和寒町内デイサービス利用者数・特養入所者・待機者数

健康苑では、高齢者人口減少による利用者の減少に加え、独居もしくは高齢夫婦が町内で在宅継続を維持することが困難となり、施設入所や町外（家族のそば）へ転出するなど、利用者が減少してきています。



出典：和寒町社会福祉協議会：「指定管理施設の現状と今後について」

### ■障害福祉サービス利用状況から

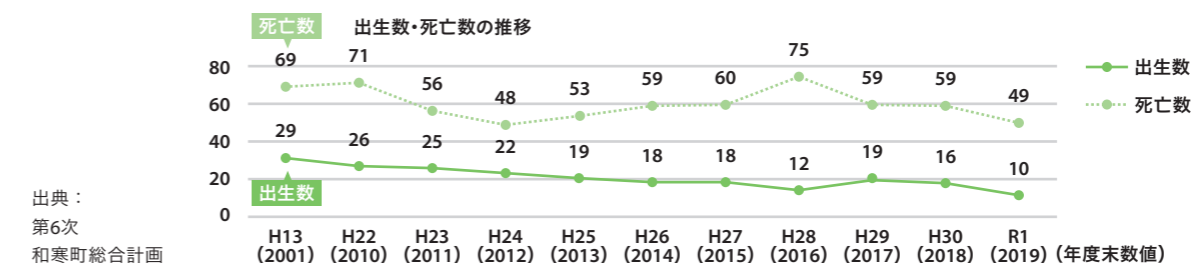
分類	サービス種類	R4		R5.7 支給決定実績	
		人数	給付費 (千円)	人数	和寒町 在住
訪問	居宅介護	2	5,867	2	1
日中活動	短期入所	2	345	2	2
	生活介護	19	48,268	20	2
	就労継続支援A型	3	5,847	3	2
	就労継続支援B型	8	10,904	9	5
障害児	児童発達支援	5	1,225	6	6
	放課後等デイサービス	2	469	2	2
合計(実人数)		41	72,925	44	20

※短期入所については、町外事業所の利用となっており、和寒町在住については再調査

- ・町外の障がい者グループホーム（共同生活援助）や施設に入居している方は、これまでの暮らしもあることから、和寒町で新規の福祉サービスを開始したとしても、利用することが考えにくいです。
- ・和寒町に在住し、かつ町外の通所系サービスを利用している方は今後町内でのサービスを希望する可能性があります。
- ・障がい児向け福祉サービスを利用している方は8名おり、成長と共に町内での福祉サービスが必要となる可能性があります。
- ・障がい者福祉サービス事業単独で考えるのではない発想が必要となります。

### ■障がい児福祉サービスについて

- ・今後の障がい児の福祉サービスの利用については出生数から少ないと思われます。  
(出生数は10人前後で推移、令和5年度は6人の見込み)
- ・年によって利用を必要とする児童の数にばらつきがあることから見極めることは難しくなります。
- ・現状としては、就学前（年少～年長）は各学年1～4人程度（2～4割）が通園を利用しています。
- ・支援を要すると思われるも福祉サービスにつながらないケースも存在します。
- ・特別支援学級は各学年0～3人程度（各学年約1割）が在籍しています。
- ・よって方向性として、それぞれの福祉サービスを独立して設定するのではなく共生型事業として機能させていくことが現実的と考えます。



## 子どもたちが 大切にされる機能の構築



### 【サービスの種類】

- ・共生型通所介護（18名定員、高齢者・希望する障がい児者も対象 多様な活動支援:アート・工作・農作業）
- ・共生型短期入所生活介護（各ユニット2居室、8名、特別養護老人ホームの空床利用型）
- ・特別養護老人ホームの共有スペース等を活用し子どもたちの居場所に
- ・特別養護老人ホームの厨房機能を活用した、子どもを含むあらゆる世代への「食の拠点」

### 各ビジョンと連動して「子どもたちが大切にされる機能」を構築していきます。

- （ビジョン1での展開）
- ・特別養護老人ホームの各ユニットにある共有スペースを子どもの居場所に
  - ・特別養護老人ホームと保育所、学校が連携したプログラムの開発

- （ビジョン2での展開）
- ・障がい児や生活困窮世帯等の子どもに対する専門職のアプローチ
  - ・不登校児に対するサードプレイス機能の構築
  - ・図書館など既存の施設を活用し子どもたちの学習支援や居場所支援の展開

- （ビジョン4での展開）
- ・地域開放スペースを活用し、学習をしたり、遊んだりできる居場所に
  - ・子育て世帯が、子どもを預け、落ち着いて過ごせる居場所に

- （ビジョン5での展開）
- ・特別養護老人ホームの厨房機能を活用した「食の拠点」での食育環境の整備
  - ・農作業場、創作活動場と、保育所や学校教育をつなぐ遊びや体験の機能

### 【事業の方向性】

- ・子どもや子育て世代が和寒町に生まれ育ち、誇りを感じることで事業を展開します。
- ・和寒町に定住する若者を増加させるための事業を展開します。
- ・障がい児に対する社会的サービスについて、共生型事業を基軸に対応する体制を作り、専門職を配置します。

### 【現状】

- ・ふくしのまちづくりラボでは、町民が推進したい項目として、子どもに対する事業が最上位でした。
- ・少子化対策として、第6次総合計画町民意向調査では「雇用機会の確保」が最上位です。
- ・平成25年まで20名ほどの出生数、その後10名台が続き、令和以降1桁の年もあるほど少子化が進んでいます。
- ・高校卒業後、和寒町に定住する若年層は農業後継者が主であり、全体の1割未満です。
- ・乳幼児から小学校低学年までの行きやすく過ごしやすい居場所について不足している状況です。
- ・少子化に伴い、自治会、スポーツ少年団の取り組みが縮小・脆弱化している状況です。
- ・学習機会に所得格差が起きている状況があり、公設の学習塾等を望む声があります。
- ・障がい児に対する福祉サービスが乏しい状況にあり、近隣市町村を頼りにしている状況です。



### 【いただいたご意見から】

ここでは機能を決めていくにあたりいただいた町民の皆さんの声をまとめます。

#### （進路）

- ・子どもたちは中学校を卒業すると、町外の高校へ進学し地元に戻ることなく、仕事はそのまま町外へ、という流れが常態化している。
- ・和寒町では働く場＝農業メインとなっており、それ以外の希望職種については、他市町村に移住という状況。

#### （文化）

- ・金銭的に余裕があったとしても、子どもに習い事を受けさせるということのハードルがある。
- ・昭和58年に「スポーツのまち宣言」をしていることから、子どものころから文武両道の文化が根付いている。一方、多様性や個性を尊重する価値観が薄い状況もあると感じる。

#### （居場所）

- ・子どもの休日の居場所がない。
- ・気軽に集い遊べる場所が不足しているため公園の整備を希望する。
- ・お寺やこども食堂には一定の子どもが集まる。
- ・雨天時や冬の間の子どもたちの居場所がない。町民センターの4階にWi-Fiを求めて子ども達が集まる場となっているが、異を唱える声もある。
- ・小学校1年～2年生を越えると学童保育の利用が著しく低下する。



## あらゆる住民が 活躍できることを実現する 「雇用創出」機能の構築



### 【サービスの種類】

- ・共生型通所介護  
(18名定員、高齢者・希望する障がい児者も対象 多様な活動支援：アート・工作・農作業)
- ・障害者就労継続支援B型  
(定員10名、特別養護老人ホームでの清掃・洗濯などの仕事や農作業などの施設外就労)
- ・お仕事センター・お仕事マッチング・トレーニング・コーディネート  
(必要な人に必要な仕事を、フルタイムだけではなくお仕事の提供と仲介)
- ・町の人たちが仕事をしたり学んだりすることができるフリースペース

### 【事業の方向性】

- ・様々な機関・団体との連携により、あらゆる人が活躍する雇用の創出を推進します。
- ・町民の活躍と町のニーズをマッチングする場を作る事業の実施及び起業を推進します。

### 【第6次総合計画 町民意向調査から】

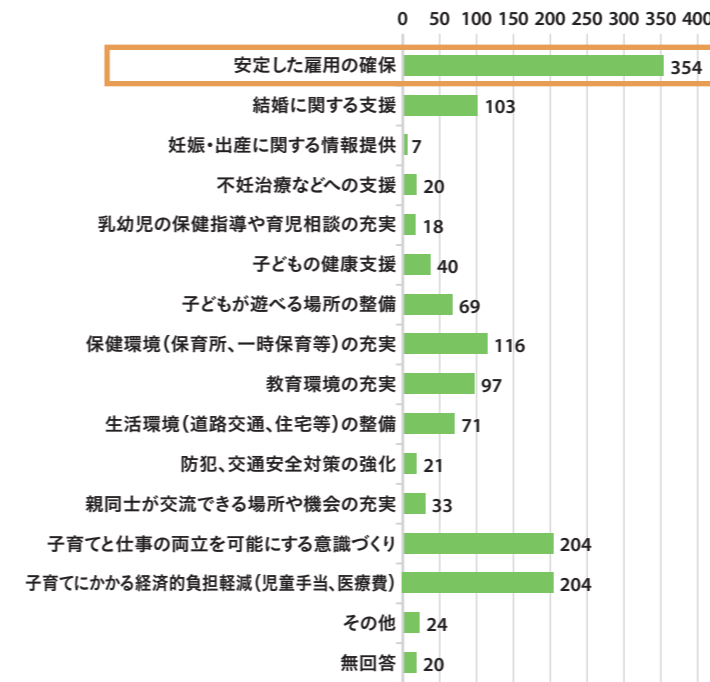
第6次総合計画からは、町民から「雇用」についての回答が多くみられました。

特に、「少子化・人口減少対策として有効と考えること」「町内移動・転出をする理由」にも多くの回答があります。

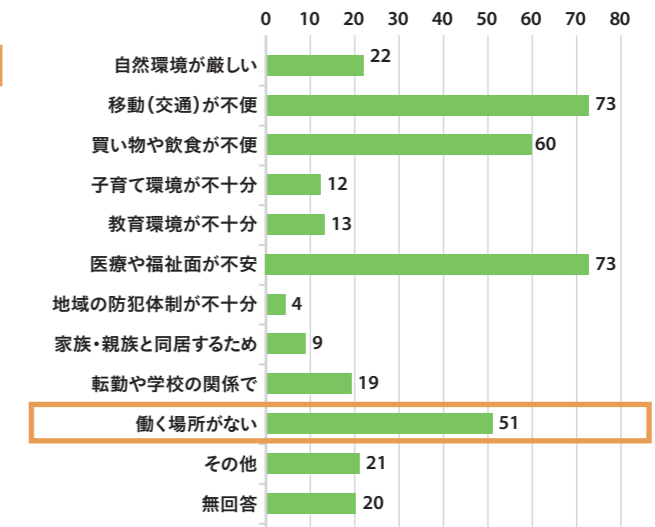
中学校を卒業後、子どもたちは町外の学校に行き、その後就職します。町内で住み続けたくともできないという現状もある中、和寒町で生まれ育った誇りを持ち、町内で活躍の場があるということは重要な要素と言えます。

また、フルタイムのみならず、あらゆる人が「働く」ことができるということは、町民の意見から希望として聞かれ、人手不足を課題とする事業者もいることから、双方のマッチング機能も求められています。

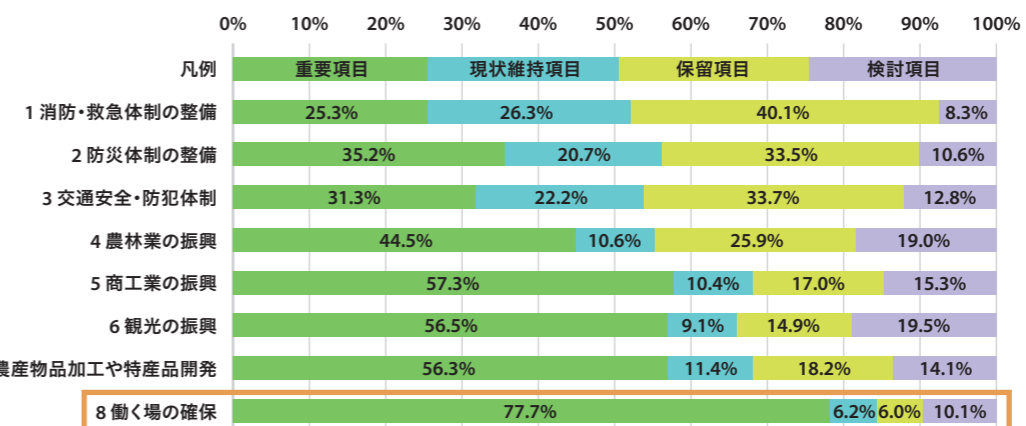
#### ■少子化・人口減少対策として有効と考えること



#### ■町内移動・転出をする理由



#### ■消防・防災・生活安全・産業について



マッチング機能として、岡山県奈義町で取り組んでいる「しごとコンビニ」を参考としており、そこでは、少しの時間でも働きたい人と、働いてほしい人をマッチングするハブ機能があります。

子育て世代の方やフルタイムはちょっと苦手という方にも、ゆとりの共有スペースで一休みしながらお仕事に取り組んだり、子どもの一時預かりなどがあると助かります。

## 和寒町の特色である 農業・食文化を推進する 機能の構築



### 【サービスの種類】

- ・地域の方々のお仕事と交流、子どもたちの学びを創出する開放型の農場及び作業所・休憩所
- ・特別養護老人ホームの厨房機能を活用した、子どもを含むあらゆる世代への「食の拠点」
- ・子どもからお年寄りまで自由に集うことができるイートインスペース

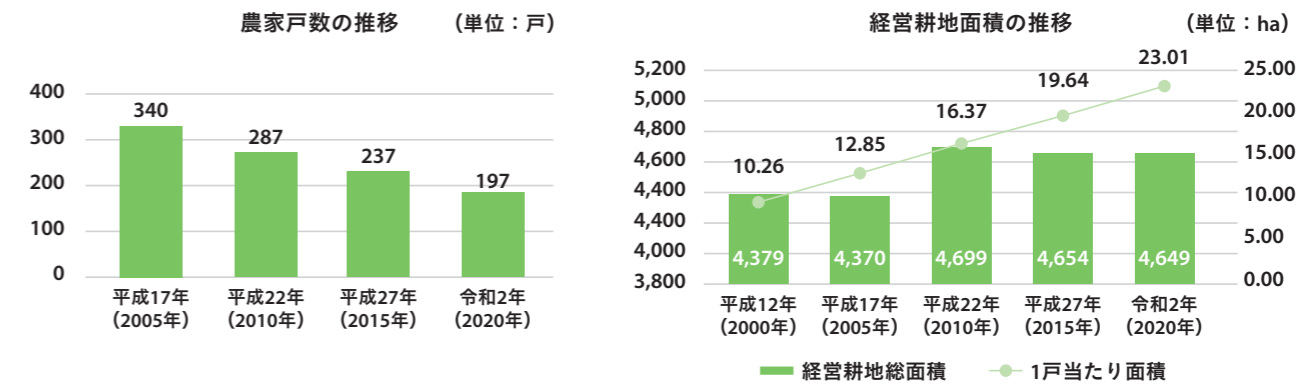
### 【事業の方向性】

- ・敷地内に設ける農場で、新たな福祉拠点で使用する農作物を育て、その加工そして消費まで多くの方々の関わりを生みます。その過程を通し「農業・食文化を推進」していきます。
- ・子どもたちや子育て世代そして高齢者による関わりを生むことで、食文化の伝承を推進します。
- ・障がい者の就労支援事業による「農福連携（のうふくれんけい）」等を推進します。
- ・特別養護老人ホームの厨房機能のさらなる活用を進めます。

### 【現状】

- ・かぼちゃや越冬キャベツなど魅力的な農産物があります。
- ・第6次総合計画資料から農家戸数の減少及び1戸あたりの面積が拡大している実態が示されています。
- ・豊富な資源を有する一方で、今後も厳しい状況が想定される農業や食文化を維持継続していく必要性があります。
- ・農作業が障がい者等の仕事となる事例は多く、町内においても可能性があります。
- ・自然や食環境に魅力を感じ、和寒に移住・起業している方々もいます。
- ・特別養護老人ホームには厨房整備が必要ですが、それだけの機能にとどまらず配食サービスや地域の方々の食にまつわるニーズに対応することも検討が必要です。

### ■農業の現状と課題



資料：第5次 和寒町農業・農村振興計画より

資料：第5次 和寒町農業・農村振興計画より

第6次総合計画でも、すでに農業者の高齢化や担い手不足により、経営規模の縮小を図る農業者や離農する農業者が増加すると考えられ、引き受け手のない農地が増加することを懸念しています。農業者の中には「自分が最後一人で農業をやっている。あとを継ぐ人もいない。どうにか自分でやれるまではやりたい」と話す方もいます。

一方で、農作業は様々な方が担うことのできる仕事として可能性が多くあるため、「どうやったらできるか」の視点で協働していく機能を検討する必要があります。



## これらのビジョンを実現するために



### ビジョンの具体化に向けて

5つのビジョンの実現に向けて、サービスや事業を更に具体化していくためには、引き続き町民が主体となり検討を深めていくことが必要と考えます。

また、これらのビジョンの実現のために、施設の整備が必要となることから、次章で「中核となる福祉施設」の基本計画を定めます。

### 「中核となる福祉施設」の設置・運営主体について

新たな施設は「民設・民営（みんせつ・みんえい）」による設置・運営が望ましいと考えます。

#### ■理念・方針の体现

行政を頼らない住民主体の事業運営を実現させるためには、行政と町民・民間事業者の有機的な連携体制の構築が必要となります。

#### ■安定的な経営について

民間の経営力を活かすことにより、公費負担は軽減されますが、一方で持続可能な経営をめざすため、和寒町による一定の財政的支援の検討が必要となります。

#### ■サービスの質の向上

民間の経営力・施設の運営ノウハウを活用し、サービスの質の向上が図られます。職員の定着確保は必要不可欠であり、処遇等の維持は、重要な視点となります。

#### ■民設による施設整備について

建築コストが増加する昨今の状況から、民設の施設整備によりコスト削減について検討が必要です。

